

・過半数代表者選挙を振り返って

◆はじめに

今回行われた過半数代表者選挙において応援していただき本当にありがとうございます。私自身の力不足により敗れてしまい申し訳ありませんでした。87票という数字を捉え返しながら日々の運動に活かしていきたいと思っています。これからも応援よろしくをお願いします。

◆労働者代表者選挙運営について

そもそも過半数労働者代表というのは過半数を占める労働組合の代表が務めることになっています。そして労働者の代表を決めるならば労働者同士が議論し代表を決めるべきではないでしょうか。何故会社が選挙期間、選挙方法を決定するのか問題ではないでしょうか。仮に選挙期間、選挙方法を定めるならば全社員へやり方、方法を提起し納得が得られれば進めるというのが本来あるべき姿ではないでしょうか。当初私たちの所信表明も「労働者代表」を「社員代表」へと「議論」を「話し合い」へと変更をしてくれと言われました。それは支社の勤労が言っていたという理由からです。意図的に会社は労働者意識を削ぎ落す行為をしてきました。何故労働者代表ではいけないのでしょうか。何故議論ではいけないのでしょうか。明らかに物言う労働者の排除と何でも言うことを聞く社員の醸成が狙われているのではないのでしょうか。

◆選挙期間中について

私たちは一人ひとり労働者代表の役割を多くの人と議論をしてきました。労働者代表の役割は職場の労働条件、労働環境を安全衛生委員会の場を通じて議論し改善をしていく。それでも改善が出来ない場合においては労働組合として上部機関とも相談をしながら様々な手段、方法で問題を解決していくことが重要です。しかし、現状の安全衛生委員会9名のうちもし仮に管理者（助役）が代表となれば9名のうち6名が管理職並びに管理者で安全衛生委員会が構成されてしまいます。この様な現状で職場の労働条件、労働環境は改善がされていくのでしょうか。この様な事を私たちは訴えてきました。しかし、一部の管理者は「労働組合」＝「悪」と描き出しています。具体的には「社友会に加入をしろ。社友会が労働組合の加入から守っている。」この様に言われているそうであります。そもそも何故社友会に加入を迫られる社員と迫られない社員がいるのでしょうか。社員全員が加入をしてはいけないのでしょうか。品川地区の社友会は労働組合に加入をしても加入が出来るはずですが。意図的に排除をしているとしか考えられない事象であります。会社を良くすることは誰もが思っていることでもあります。会社を良くしなければ我々の賃金にも跳ね返ります。それは2020年の年初から世界を襲った「新型コロナウイルス感染症」により世界経済が冷え込みました。それは当然JR東日本も同様であります。その結果が年末手当2.0ヶ月という結果に繋がっています。だからこそ労働組合としても会社施策に協力し、働く労働者への還元を目指しています。